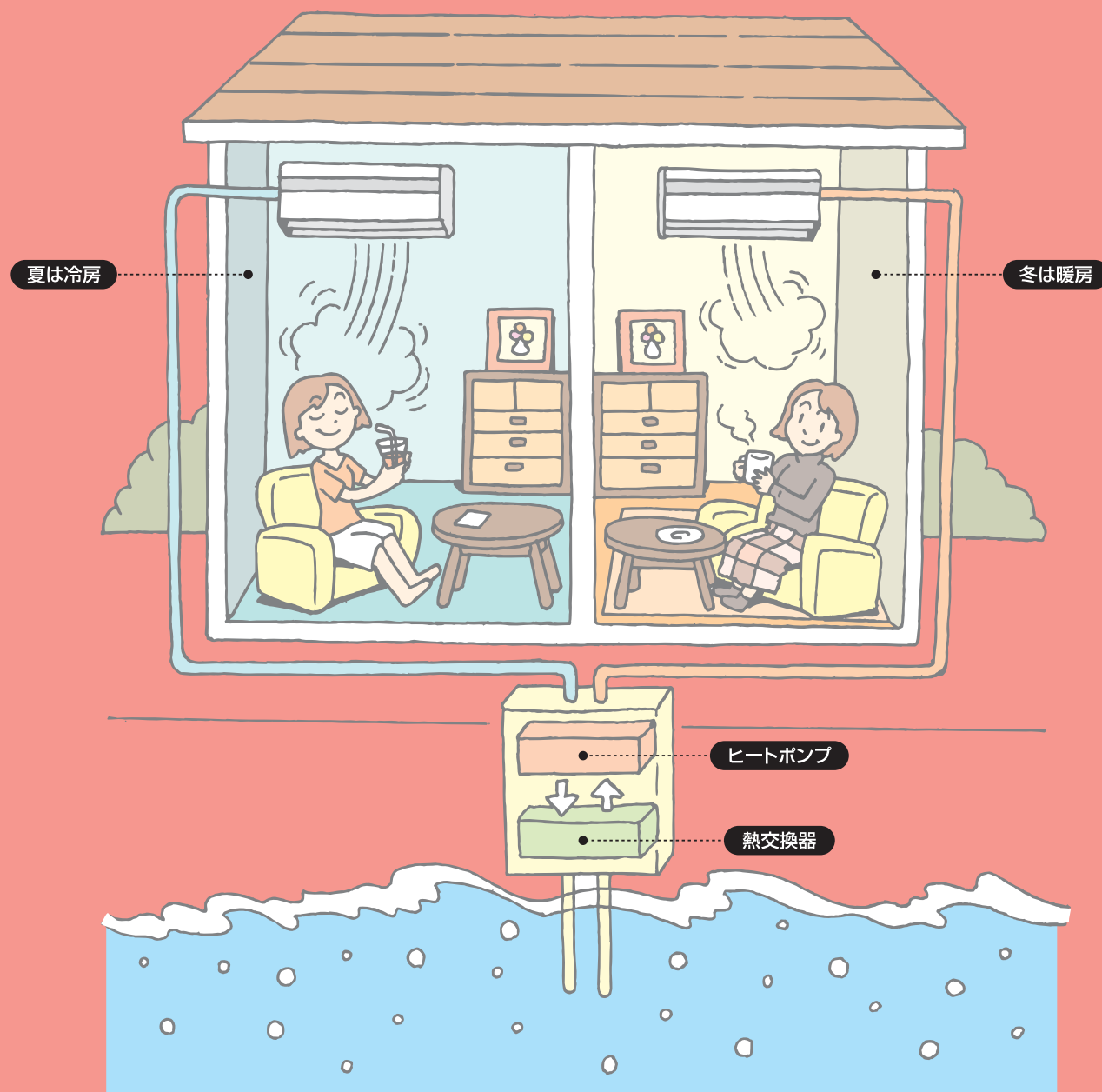


温度差熱利用

海水や河川水などが持つ「温度差エネルギー」を、ヒートポンプを使って利用します。



海や河川の水温は1年中あまり変化しません。だから季節で変化する外気に対して、夏は冷たく、冬は温かくなります。この温度差が持つ熱（冷熱）エネルギーを、ヒートポンプで取り出して冷暖房に利用します。

メリット
1

身近な熱源を利用

熱源は身近にある河川、地下水、下水などを利用することで得られます。

メリット
2

ヒートポンプで高効率

熱を効率良く利用できるヒートポンプ。河川水などの温度差熱と組み合わせることで、効率が一層良くなります。

メリット
3

都市型エネルギー

熱源とエネルギー消費地が近いことから、都市型エネルギーと呼ぶことができます。



●利用例

●中之島三丁目熱供給センター（大阪府大阪市）



大気と河川水の温度差エネルギーを利用。100%河川水に依存する形態としては全国初の導入例です。

●箱崎地区地域熱供給システム（東京都中央区）



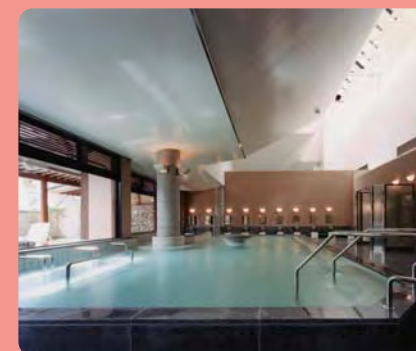
隅田川の豊富な河川水に着目し、その温度差エネルギーを有効利用しています。オフィスビルや住宅に冷温水供給しており、供給延べ床面積は約28万㎡になります。

●後楽一丁目地区地域熱供給システム（東京都文京区）



国内で初めて未処理水を熱源に利用し、JR水道橋駅に隣接する業務・商業地区に熱供給事業を行っています。

●東温市ふるさと交流館（愛媛県東温市）



泉温40℃の特性を活かし、浴槽で利用したろ過済み温泉水を利用。夜間に温水タンクで蓄熱し、浴槽などの加温に熱利用。